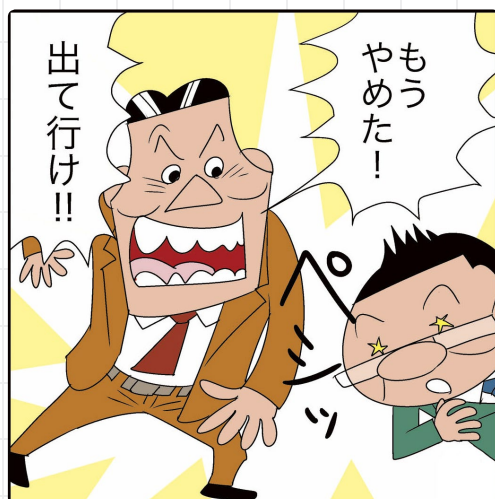


オーナー
経営者は
必読!

マンガでわかる M&Aの落とし穴10選



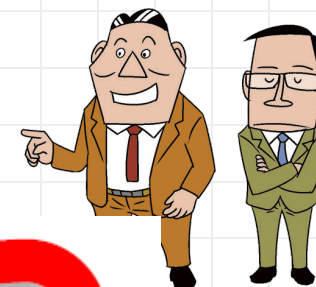


マンガでわかる M&Aの落とし穴10選

目次

1	譲り手の心情	売ろうかな 思わせぶりが 大迷惑	1
2	株式の分散	株券を 持っていたのは 赤の他人	2
3	会社の評判		
4	情報漏		
5	粉飾決算		
6	デューデリ		
7	個人では		
8	歩み寄りが大切	売ってやる 買ってやるよりは 破談する	8
9	本当に買える?	資金力 見極めてから 意思決定	9
10	本当の権限は誰に?	社長より 偉い人たち いませんか?	10

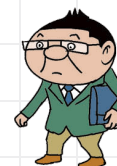
登場人物



企業U社



他社アドバイザー



DD請負会社



税理士

Sample

1 売ろうかな 思わせぶりが 大迷惑 Sample

譲り手の心情

譲渡企業の社長から「なるべく早く会社を売却したい」との意向があり、早急に譲受企業を探したところ、運良く条件の折り合う先がすぐに見つかり、トントン拍子で話が進みました。ところが、最終契約の直前になって、いきなりその社長と連絡がとれなくなることに。

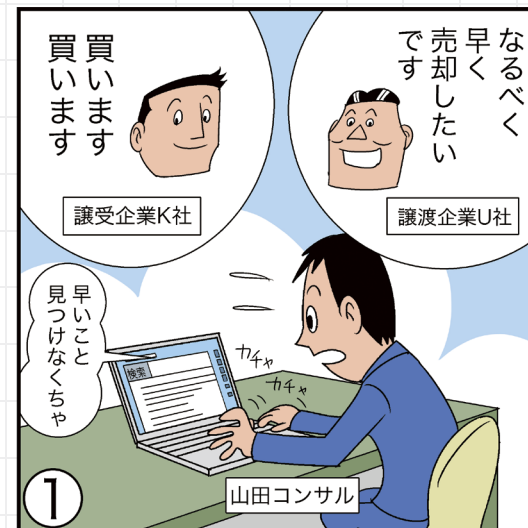
途中で「本当に売却して良いのか」という葛藤が生じたいらしいのですが、譲受側の勢いに押されて切り出せなかった、とのこと。結局、結論は先延ばしになり、このM&Aは失敗に終わりました。

意思決定が曖昧だと信頼を失い、譲受候補企業や従業員に迷惑をかけます。悩みを一人で抱え込まず、専門家とじっくり対話をしながら、ご自身の気持ちを整理して進めましょう。

ここが
ポイント!



- ・ 思いつきでM&Aを進めてはいけない! ブレない意思決定を!
- ・ 一人で抱え込まず、信頼できる専門家とよく相談を!
- ・ 「譲渡ありき」で事業承継を進めようとするアドバイザーに要注意!



2 株券を 持っていたのは 赤の他人

Sample

■ 株式の分散

中小企業は、会社（株式）を所有するオーナーと経営者が同じ人物であることがほとんどです。しかし、経営者本人のほかに、親族、従業員、取引先などが一定割合の株式を保有しているケースも多くあります。

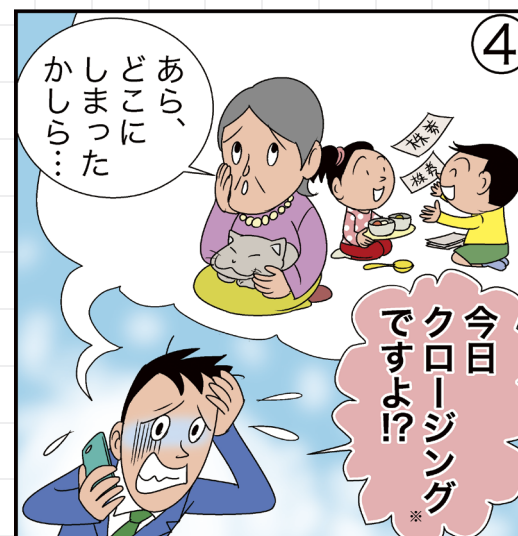
特に「株券」を発行している会社は要注意です。M&A交渉の最終的な局面で株券が社長の手元になく、離婚した元配偶者が所有していることが判明して大混乱になった事例があります。この出来事で、譲渡企業の経営体質について不信を招くことになってしまいました。

株式譲渡によるM&Aを検討するにあたっては、「自社が株券を発行しているか」、発行しているのであれば「誰が保有しているか」について、あらかじめ正確に把握しておく必要があります。

ここが
ポイント!



- ・ 分散した株式は早めに対処を!
- ・ 株券発行の有無は、登記事項証明書と定款で確認!
- ・ 譲受企業にとって、権利の所在は非常にナーバスな問題!



※クロージング…最終契約を締結し、代金決済が完了すること。

Sample



事業承継・M&A

山田コンサルティンググループ株式会社

山田コンサルティンググループは、株式市場に上場している国内最大級のコンサルティング・ファームです。
親族内承継、社内承継、第三者承継、すべての承継パターンに、実績あるプロ集団がシームレスに対応いたします。
貴社の目指すゴールに対して、私たちが示すルートは1つではありません。



ご相談・お問い合わせはお気軽に
03-6212-2521

受付時間 平日9:00~18:00 (土日祝除く)

事業承継・M&A専用サイト
<https://www.ycg-advisory.jp/>